

I 調査結果の概要

1 全国の主要都市における国産標準品、有機栽培品、特別栽培品及び輸入品の価格・販売動向

(1) 販売店舗数割合

平成18年における販売区分別（国産標準品、有機栽培品、特別栽培品及び輸入品。以下同じ。）の販売店舗数割合は、以下のとおりであった。

ア 国産標準品の品目別の販売店舗数割合をみると、輸入品が比較的多いかぼちゃ、ブロッコリー及びにんにくで、他の品目に比べて低くなっている。

イ 有機栽培品については、たまねぎが約1割と最も高く、次いで、にんじん、ばれいしょ、ほうれんそうが他の品目に比べて高くなっている。

ウ 特別栽培品については、たまねぎ約2割と最も高く、次いで、にんじん、ばれいしょ、トマト、ミニトマトが1割以上となっている。

エ 輸入品については、にんにくが6割以上と最も高く、次いで、ブロッコリー、かぼちゃ、しょうが、生しいたけの割合が高くなっている。

表1 販売区分別の販売店舗数割合

品目	販売店舗数割合 (%)			
	国産標準品	有機栽培品	特別栽培品	輸入品
だいこん	100.0	3.7	2.7	...
にんじん	97.8	8.7	14.1	1.5
ごぼう	93.9	2.1	6.2	12.8
はくさい	99.6	...	0.4	...
キャベツ	99.9	1.2	3.9	...
ほうれんそう	98.8	7.4	4.7	...
ねぎ	99.8	0.8	2.0	12.3
ブロッコリー	80.4	47.7
レタス	99.0	...	5.1	...
きゅうり	99.9	0.9	7.3	...
かぼちゃ	66.3	...	3.3	37.9
なす	99.6	0.2	4.4	...
トマト	100.0	1.3	13.1	...
ミニトマト	97.1	1.9	11.7	2.8
ピーマン	99.3	1.8	8.1	...
ばれいしょ	95.4	7.9	13.7	...
さといも	87.1	...	3.4	6.7
たまねぎ	96.0	11.3	17.2	6.5
にんにく	83.2	...	8.2	65.0
しょうが	91.9	...	8.9	34.2
生しいたけ	98.4	30.1

注：販売店舗数割合は、年間延べ調査店舗（1,204店舗）に対する、各品目の販売区分別の販売店舗数（年間延べ）の割合である。

(2) 価格動向

主要品目について、販売区分別の月別の価格動向をみると、価格の騰落はあるものの、総じて有機栽培品、特別栽培品は国産標準品の価格を上回って推移し、輸入品は国産標準品の価格を下回って推移している。

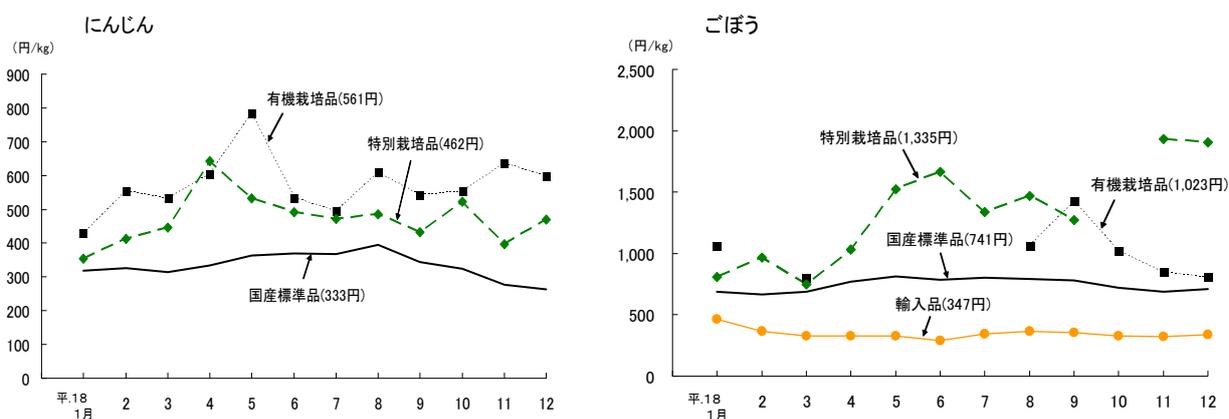
また、主要品目の販売区分別年平均価格（1 kg当たり）において、国産標準品とそれ以外の販売区分との価格を比較すると、以下のとおりであった。

ア 有機栽培品は、たまねぎが93%（国産標準品215円に対し有機栽培品416円、以下同じ。）、にんじん及びびばれいしょが68%（333円に対し561円及び273円に対し458円）、それぞれ国産標準品を上回っている。

イ 特別栽培品は、ごぼうが80%（国産標準品741円に対し特別栽培品1,335円、以下同じ。）、トマトが69%（590円に対し995円）、きゅうりが53%（496円に対し759円）、それぞれ国産標準品を上回っている。

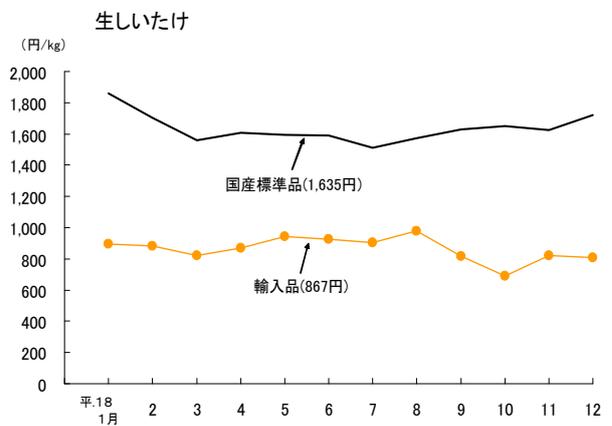
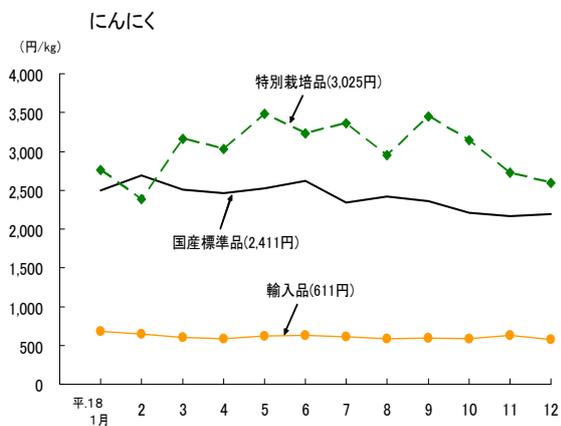
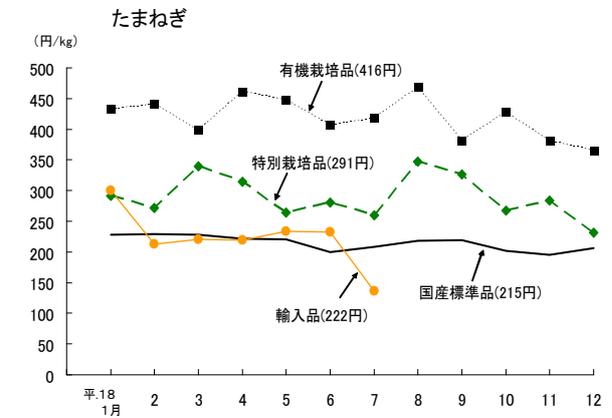
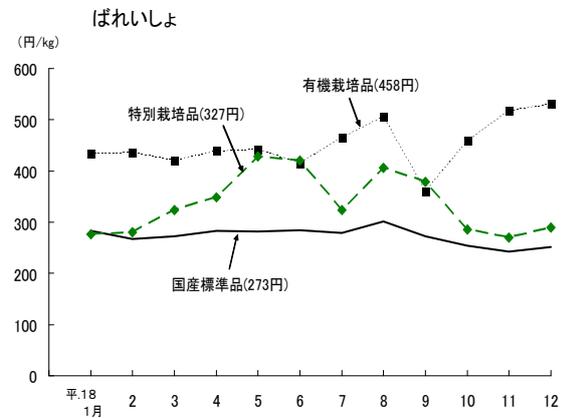
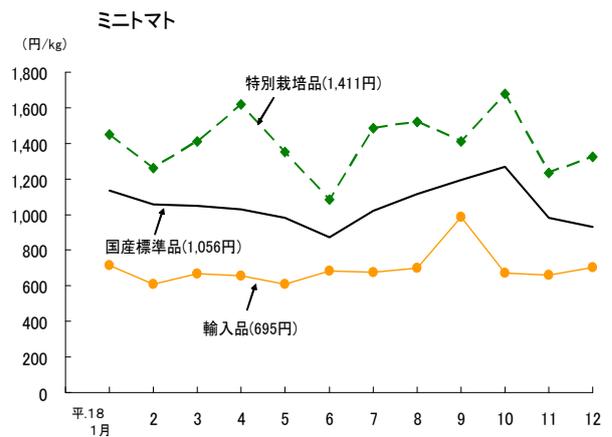
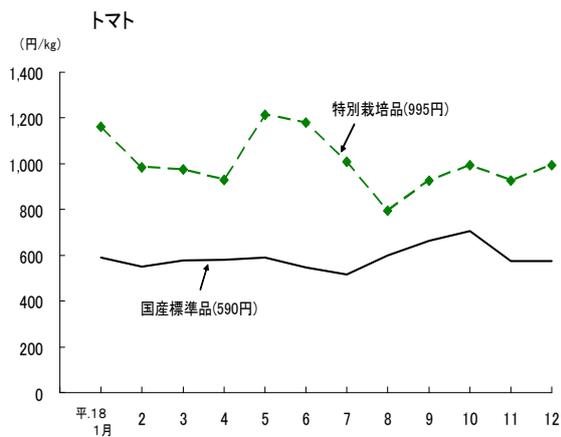
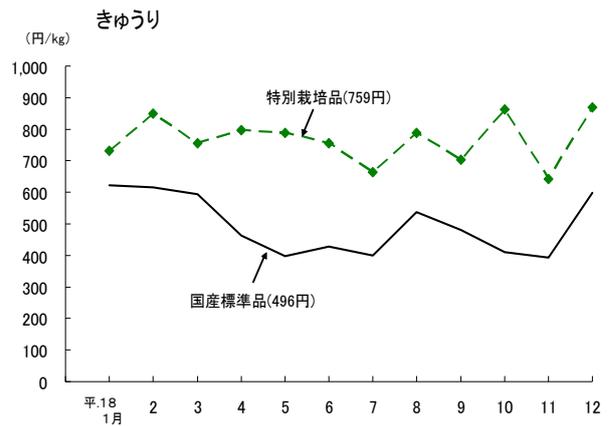
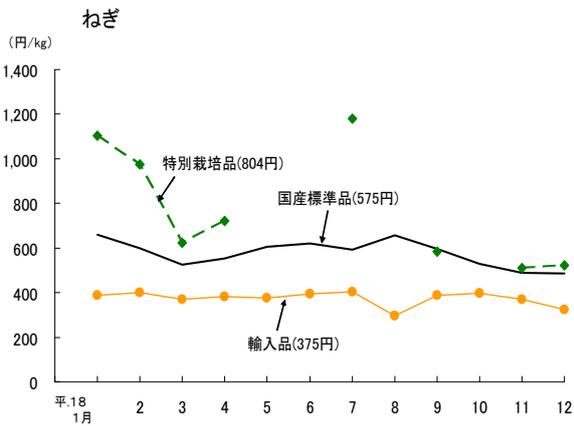
ウ 輸入品は、にんにくが75%（国産標準品2,411円に対し輸入品611円、以下同じ。）、ごぼうが53%（741円に対し347円）、生しいたげが47%（1,635円に対し867円）、それぞれ国産標準品を下回っている。

図1 主要品目における販売区分別の価格推移



注：1 （ ）内の価格は、年平均価格である。

2 グラフが途切れている部分は、当該月に調査客体において販売がなかったものである。（以下、同じ。）



2 並列販売店舗における国産標準品、有機栽培品、特別栽培品及び輸入品の価格・販売動向

(1) 並列販売店舗数割合

国産標準品と有機栽培品等を並列して販売している店舗数割合は、以下のとおりであった。

ア 国産標準品と有機栽培品については、たまねぎ、にんじん、ばれいしょが他の品目に比べ比較的多くの店舗で並列販売されている。

イ 国産標準品と特別栽培品については、たまねぎ、にんじん、トマト、ばれいしょ及びミニトマトが1割以上と他の品目に比べ高くなっている。

ウ 国産標準品と輸入品については、にんにくが約5割と最も高く、次いでしょうが、ブロッコリー、生しいたげが約3割となっている。

表2 販売区分別の並列販売店舗数割合

品目	並列販売店舗数割合 (%)		
	有機栽培品	特別栽培品	輸入品
だいこん	3.7	2.7	...
にんじん	8.1	13.5	1.2
ごぼう	1.9	5.8	10.0
はくさい	...	0.4	...
キャベツ	1.2	3.9	...
ほうれんそう	6.4	4.7	...
ねぎ	0.8	2.0	12.0
ブロッコリー	29.0
レタス	...	4.6	...
きゅうり	0.9	7.2	...
かぼちゃ	...	1.9	9.3
なす	0.2	4.2	...
トマト	1.3	13.1	...
ミニトマト	1.9	10.7	2.0
ピーマン	1.8	8.1	...
ばれいしょ	7.6	10.9	...
さといも	...	2.1	2.7
たまねぎ	10.8	14.6	6.2
にんにく	...	5.3	51.5
しょうが	...	7.1	30.1
生しいたげ	29.0

注：並列販売店舗数割合は、年間延べ調査店舗（1,204店舗）に対する、各品目の販売区分別の並列販売店舗数（年間延べ）の割合である。

(2) 販売数量割合

並列販売店舗における有機栽培品等の国産標準品に対する販売数量割合を品目別にみると、以下のとおりであった。

ア 有機栽培品については、ごぼうが2割以上、ミニトマトが1割以上となっており、比較的高い割合で販売されている。

イ 特別栽培品については、はくさい及びにんにくが約5割と高く、次いでかぼちゃが約4割、ごぼう、レタスが約3割の割合で販売されている。

ウ 輸入品は、ミニトマトが約8割で最も高く、次いでさといも、にんにくが約7割の割合で販売されている。

表3 並列販売店舗における販売区分別の販売数量・割合

品目	販売数量			販売数量割合		
	有機栽培品	特別栽培品	輸入品	有機栽培品	特別栽培品	輸入品
だいこん	3	13	…	3.8	15.7	…
にんじん	3	9	21	7.7	22.5	56.8
ごぼう	2	2	4	22.2	28.6	36.4
はくさい	…	35	…	…	51.5	…
キャベツ	4	7	…	3.7	4.4	…
ほうれんそう	2	3	…	6.3	10.7	…
ねぎ	1	3	10	5.9	13.6	41.7
ブロッコリー	…	…	13	…	…	52.0
レタス	…	11	…	…	28.2	…
きゅうり	2	2	…	4.9	4.7	…
かぼちゃ	…	11	21	…	40.7	60.0
なす	0	2	…	0.0	10.0	…
トマト	2	6	…	3.6	12.8	…
ミニトマト	1	2	3	11.1	18.2	75.0
ピーマン	0	2	…	0.0	12.5	…
ばれいしょ	5	13	…	7.9	24.5	…
さといも	…	3	10	…	21.4	66.7
たまねぎ	4	20	18	4.9	27.4	19.8
にんにく	…	1	2	…	50.0	66.7
しょうが	…	1	4	…	25.0	50.0
生しいたけ	…	…	5	…	…	50.0

注：1 販売数量は、並列販売店舗における1店舗当たりの販売数量（1日分）である。

2 販売数量割合は、並列販売店舗における各販売区分（有機栽培品、特別栽培品、輸入品）の販売数量と国産標準品の販売数量の計に対する各販売区分の販売数量の割合である。

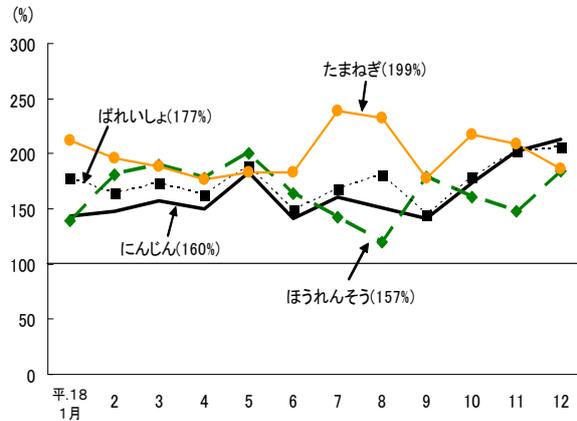
すなわち、販売数量割合＝各販売区分の販売数量／（国産標準品の販売数量＋各販売区分の販売数量）×100 となり、数値が大きいほど各販売区分の販売シェアが高いことを示す。

(3) 価格動向

並列販売店舗における主要品目の年平均価格について、国産標準品の価格と販売区分別の価格を比較すると、以下のとおりであった。

図2 有機栽培品の国産標準品との価格比

ア 有機栽培品は、たまねぎが99%、ばれいしょが77%、にんじんが60%、ほうれんそうが57%、それぞれ国産標準品を上回っている。



注：1 国産標準品の価格を100とした比率(%)である。
2 ()内の数値は、年平均価格比である。

図3 特別栽培品の国産標準品との価格比

イ 特別栽培品は、トマトが61%、きゅうりが54%、ミニトマトが27%、しょうがが16%、それぞれ国産標準品を上回っている。

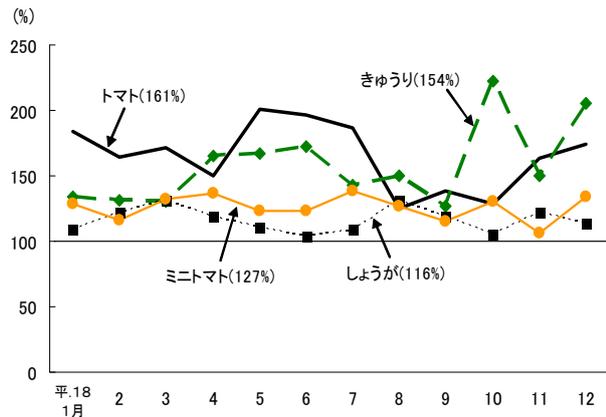
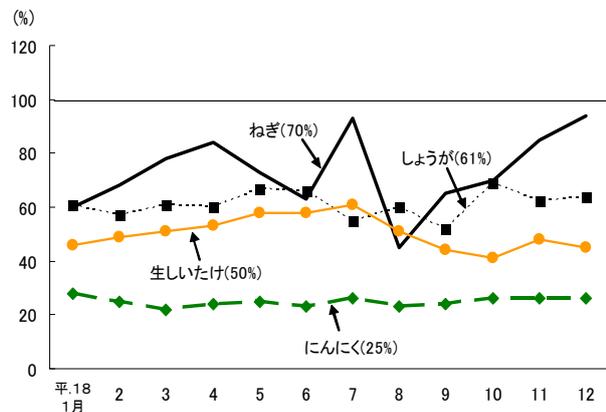


図4 輸入品の国産標準品との価格比

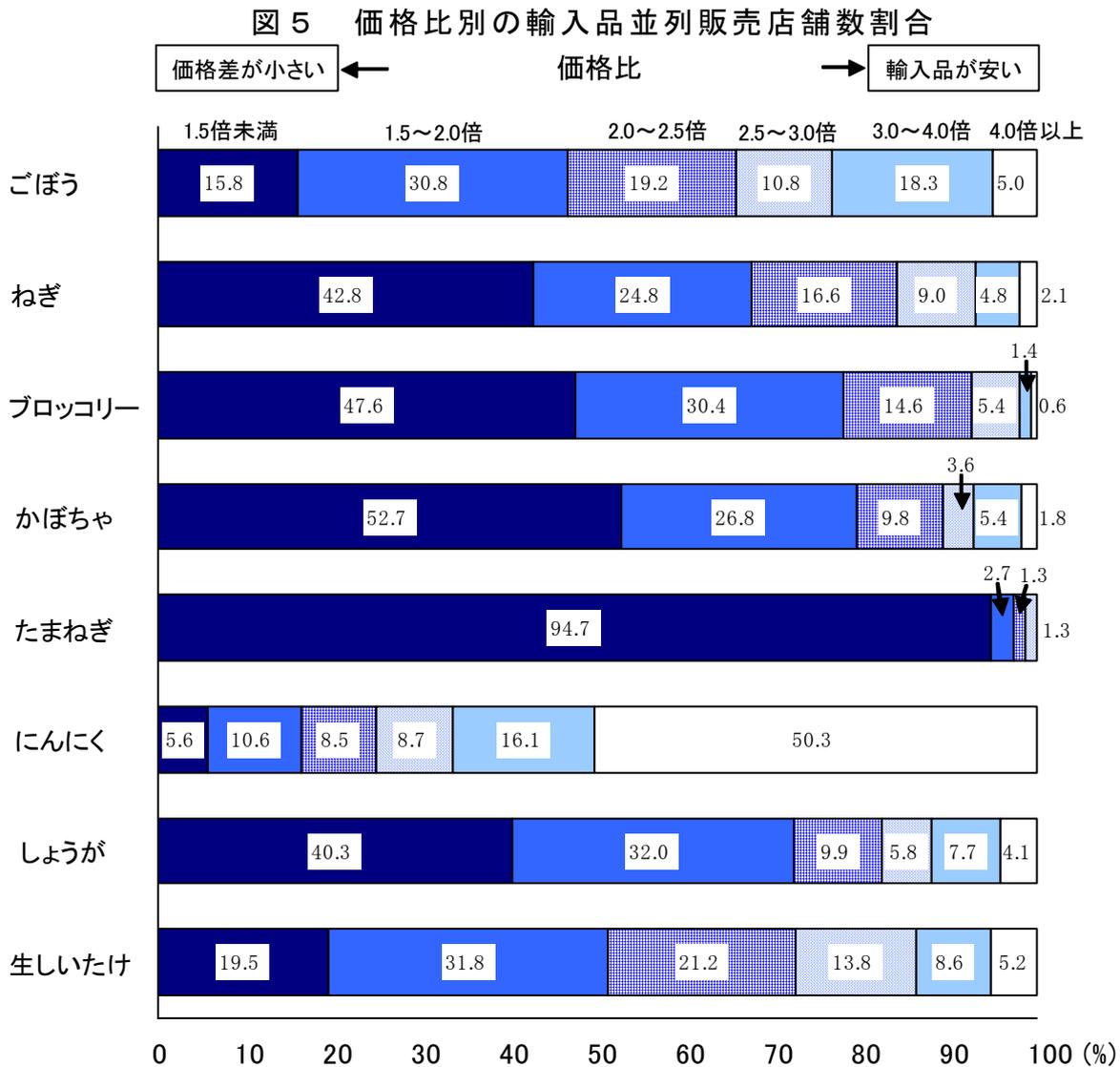
ウ 輸入品は、にんにくが75%、生しいたけが50%、しょうがが39%、ねぎが30%、それぞれ国産標準品を下回っている。



(4) 輸入品に対する国産標準品の価格比と国産標準品の販売数量割合

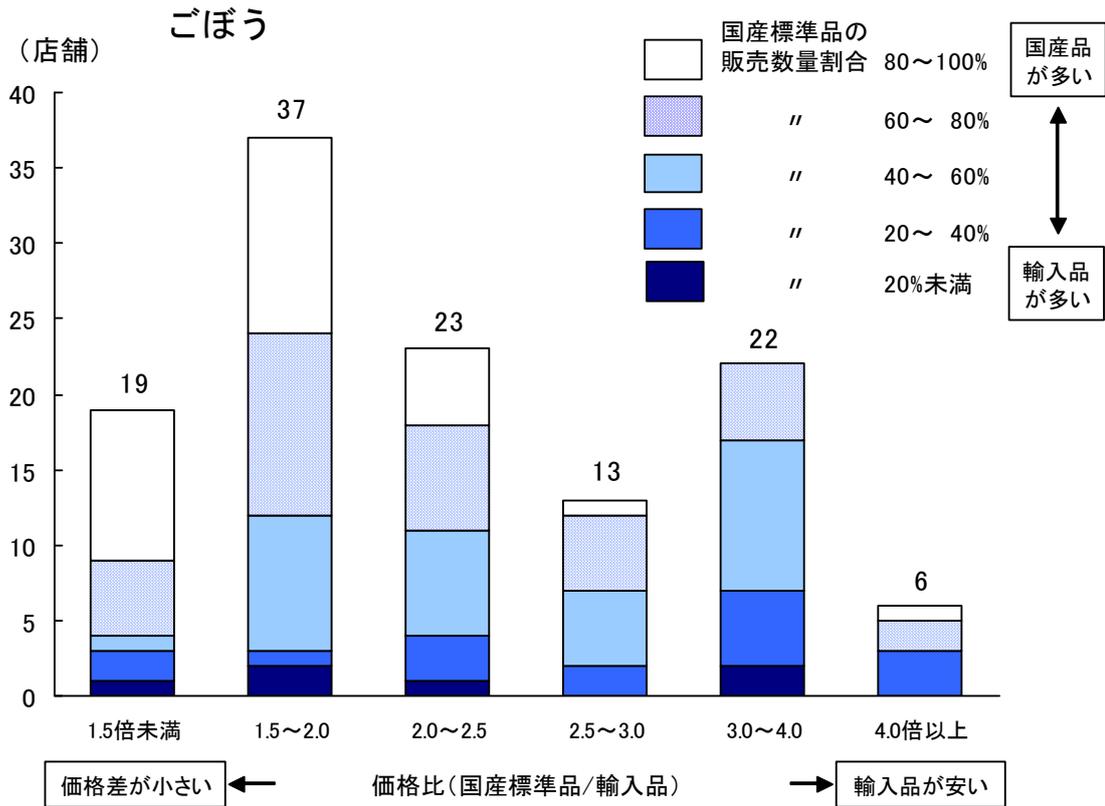
国産標準品と輸入品の並列販売店舗において、輸入品に対する国産標準品の価格比（国産標準品/輸入品）による店舗数の分布をみると、国産標準品と輸入品の価格差が比較的小さい（価格比が1.5倍未満）店舗が多い品目は、たまねぎ、かぼちゃ、ブロッコリー、ねぎ、しょうが等であり、特にたまねぎは9割以上の店舗で価格比が1.5倍未満となっている。一方にんにくでは、約5割の店舗が価格比4.0倍以上となっており、輸入品が国産標準品の4分の1以下の価格で販売されている店舗が約半数を占めている（図5参照）。

また、国産標準品と輸入品の販売数量合計に占める国産標準品の販売数量割合を価格比別にみると、品目によってばらつきはあるものの、総じて価格差が少ない（価格比が小さい）店舗ほど国産標準品が高い割合で販売されている（図6参照）。



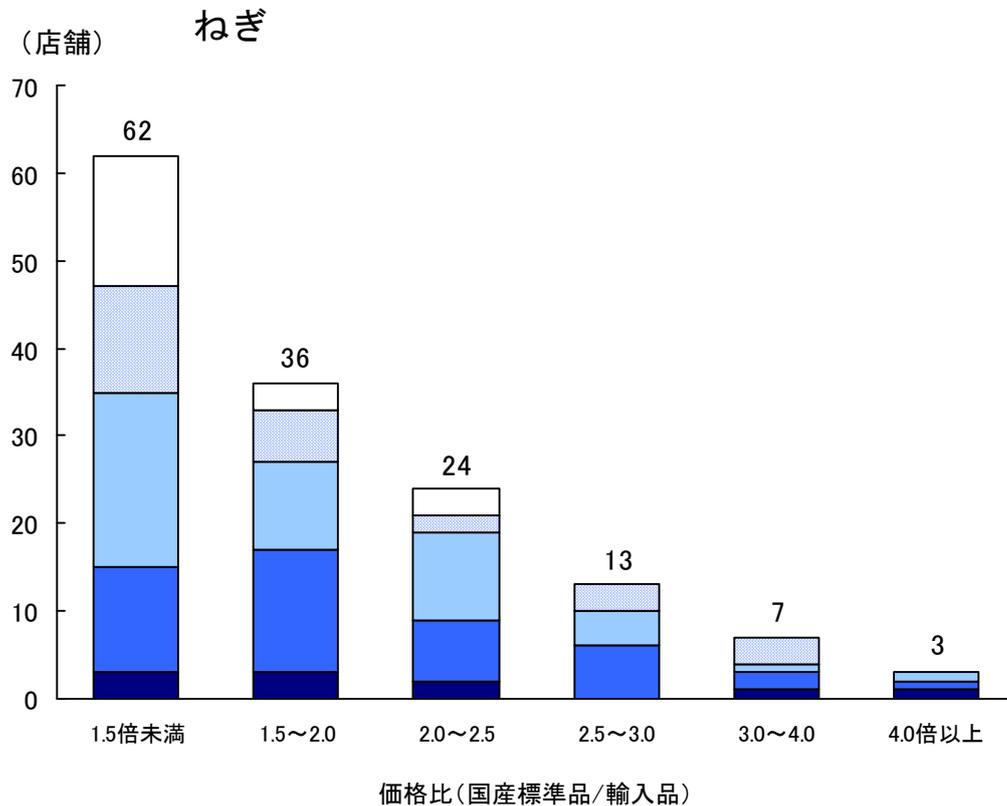
注：価格比＝国産標準品の価格／輸入品の価格 であり、数値が大きいほど輸入品が国産標準品より安価であることを示す。

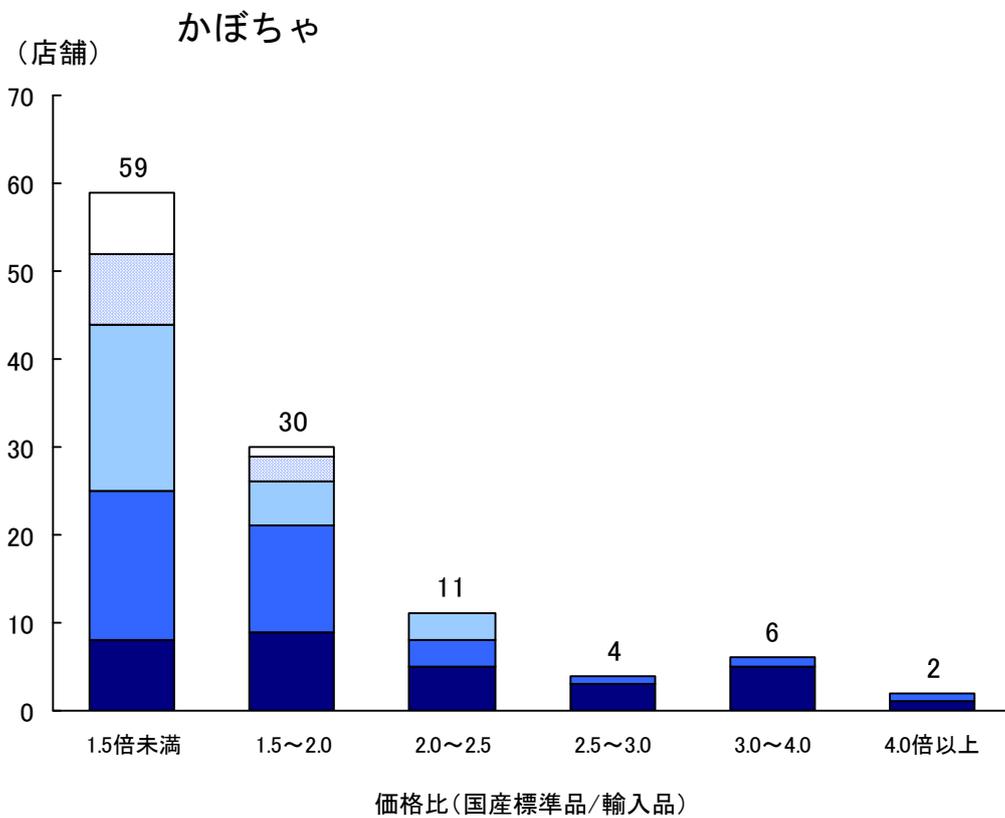
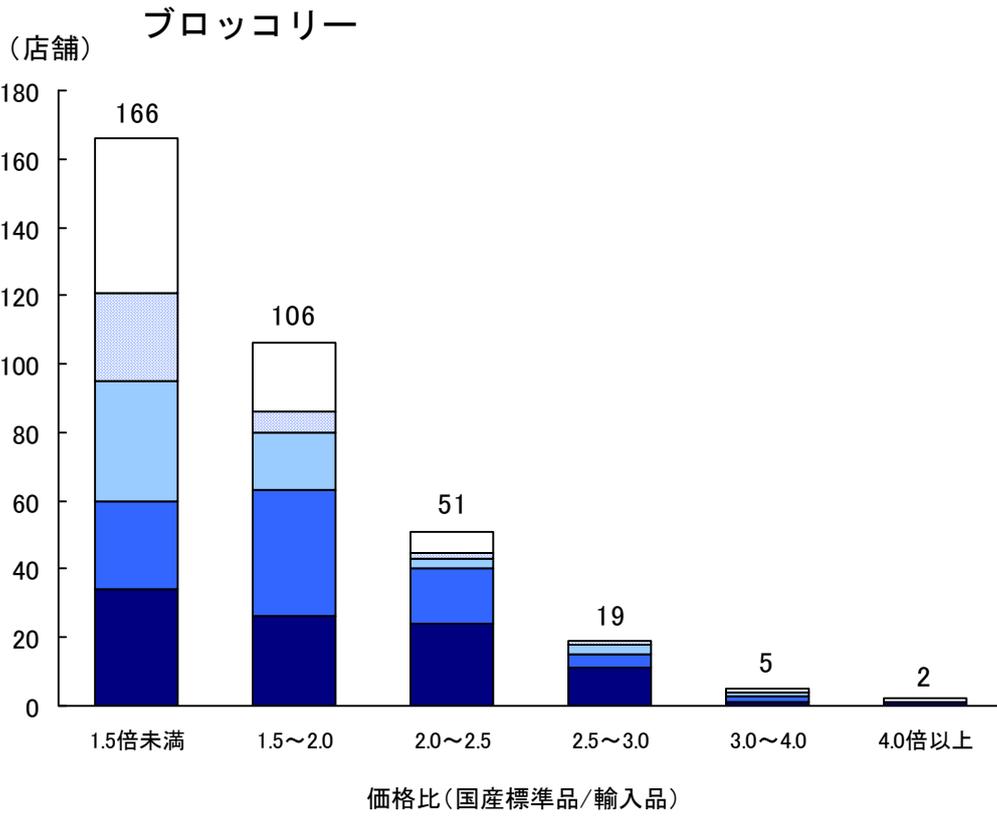
図6 価格比別・販売数量割合別にみた店舗数の分布

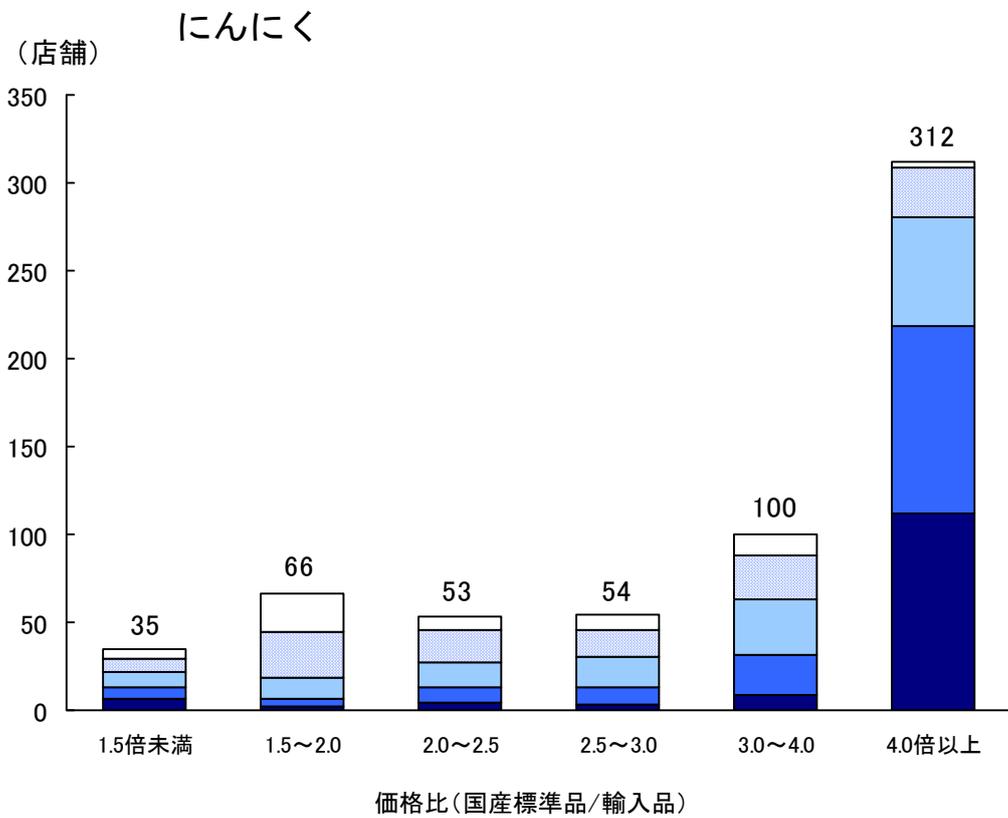
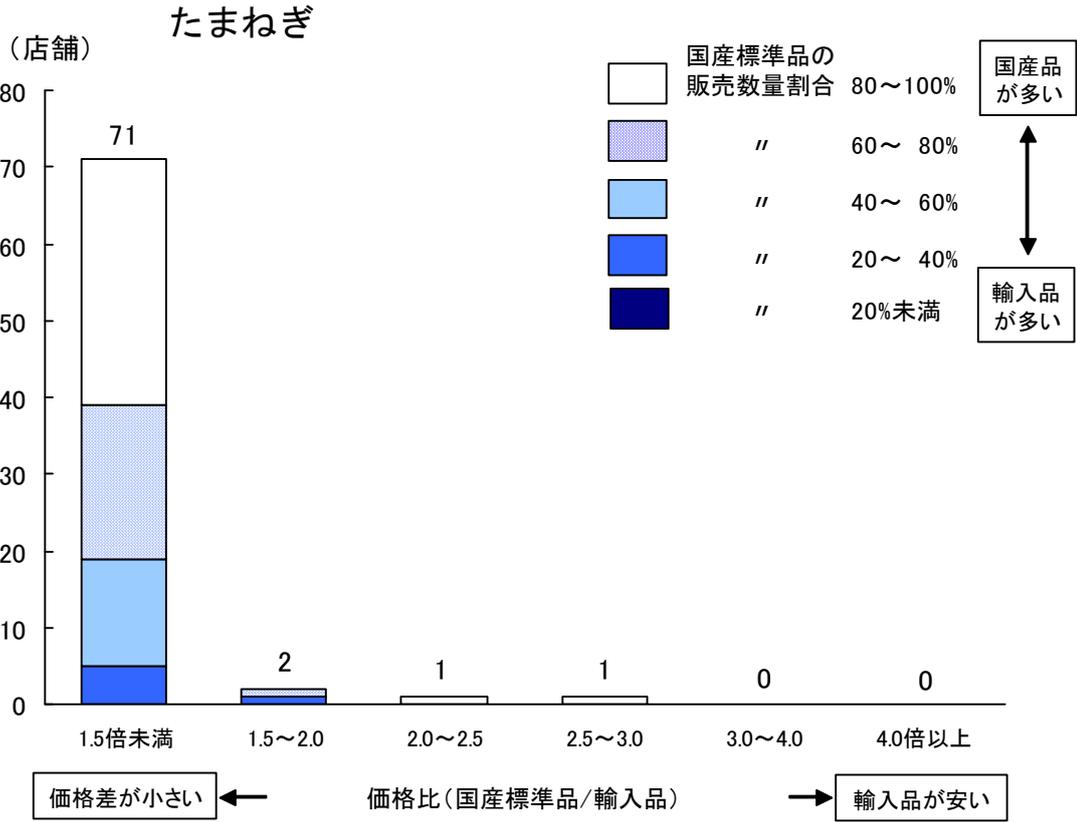


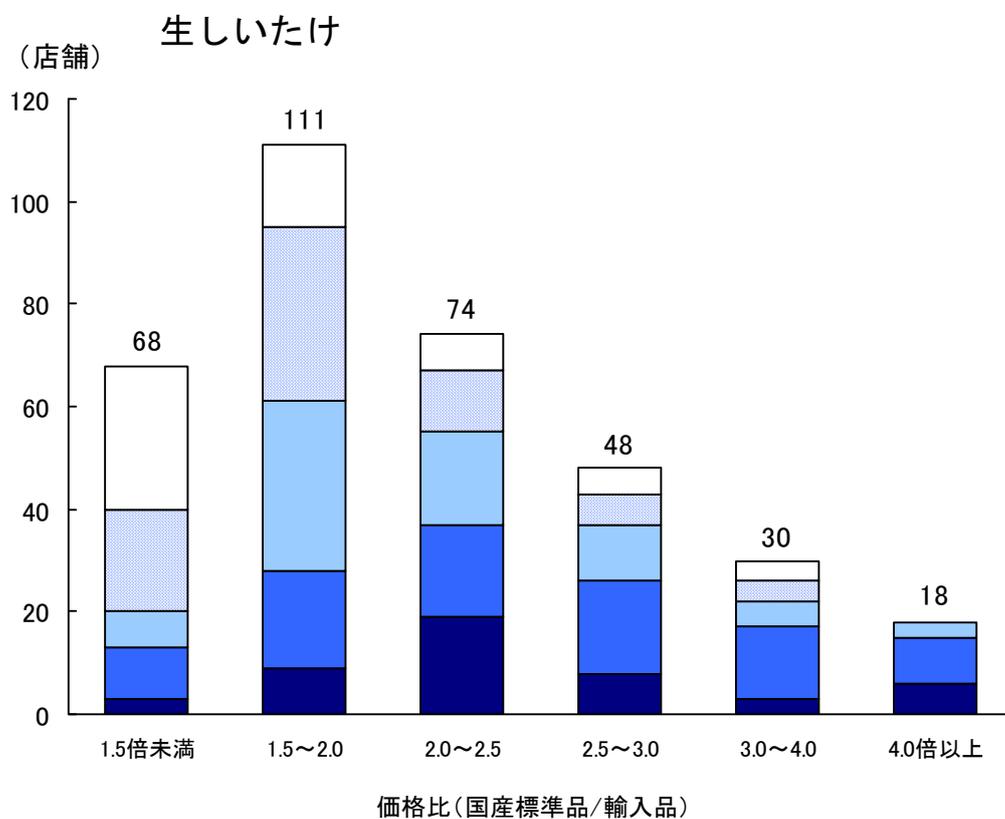
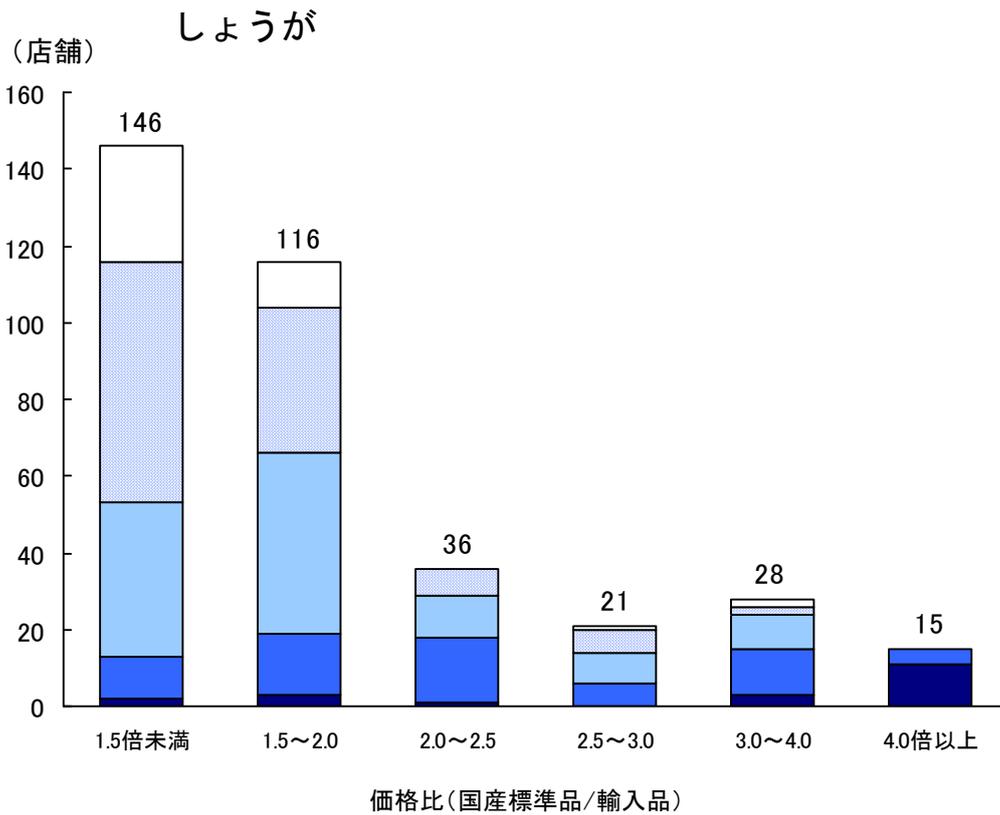
注：1 価格比=国産標準品の価格/輸入品の価格であり、数値が大きいかほど輸入品の価格が低いことを示す。

2 販売数量割合=国産標準品の販売数量/(国産標準品の販売数量+輸入品の販売数量)×100であり、数値が小さいほど輸入品の占める割合が高いことを示す。





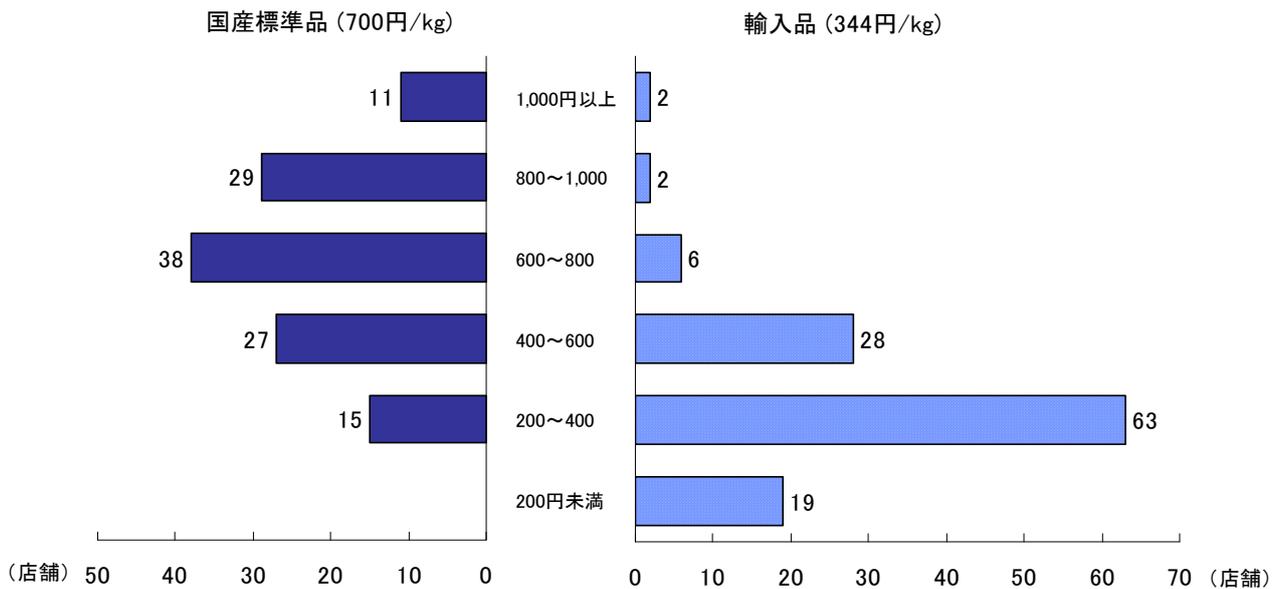




(5) 国産標準品と輸入品を並列販売している店舗における販売価格

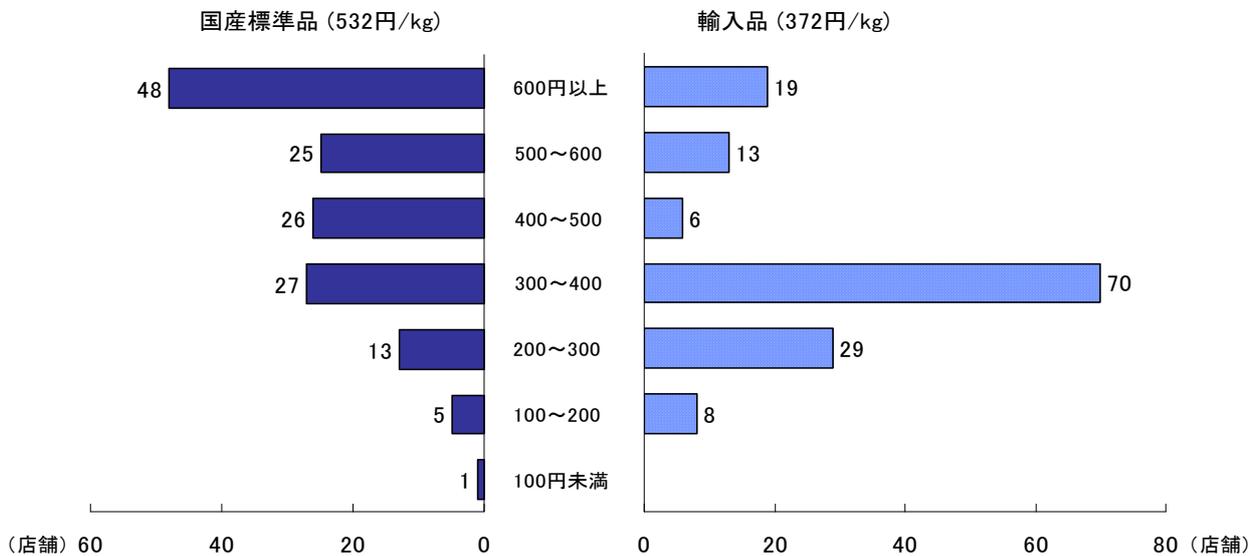
国産標準品と輸入品の並列販売店舗において、輸入品の販売が多かった品目のそれぞれの販売価格をみると、総じて輸入品の価格が安く設定されている。特に、ごぼう、にんにく、しょうが及び生しいたけについては、大半の店舗で輸入品を安く設定して販売している。

図7 並列販売店舗における国産標準品と輸入品の販売価格帯別店舗数
ごぼう

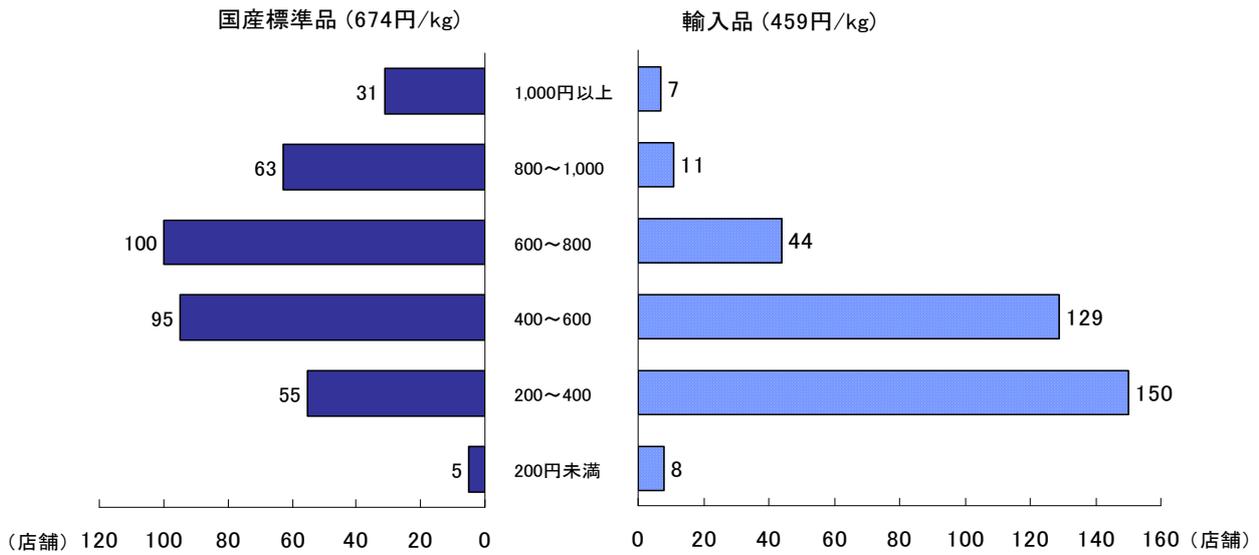


注：1 販売価格帯別店舗数は、並列販売店舗で販売された国産標準品及び輸入品について、それぞれ販売価格帯別に出現した店舗数であり、年間のべ数である。(以下、同じ。)
2 ()内の価格は、年平均価格である。(以下、同じ。)

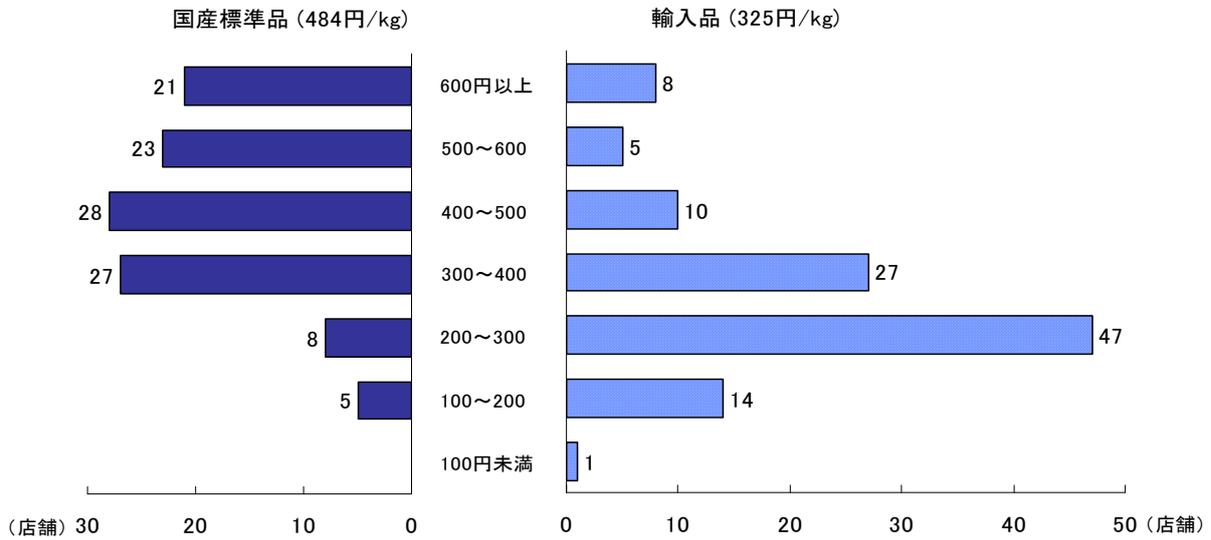
ねぎ



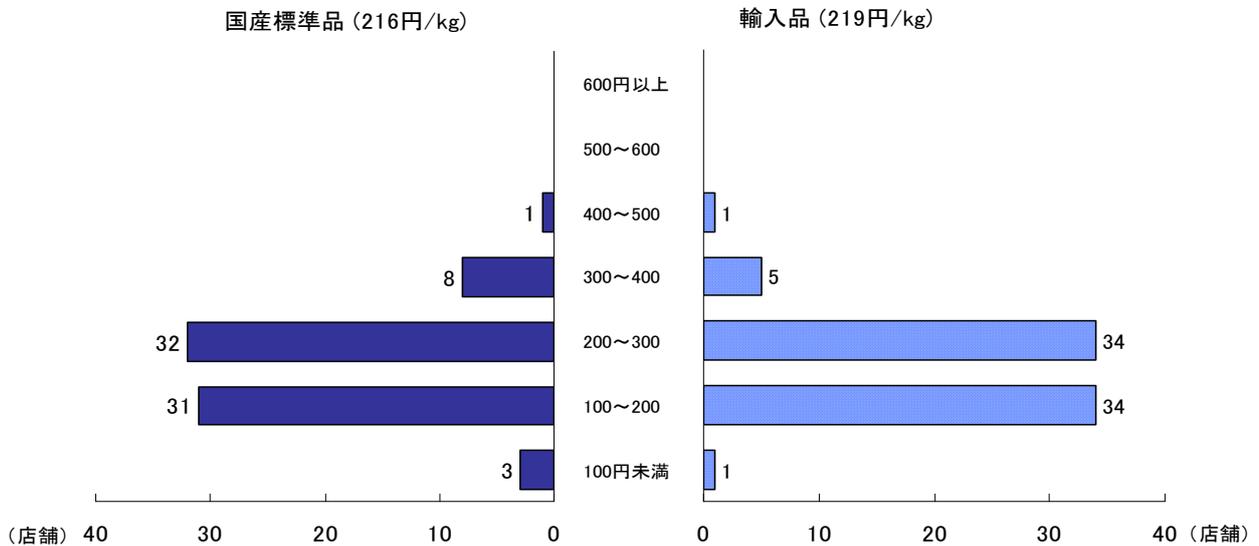
ブロッコリー



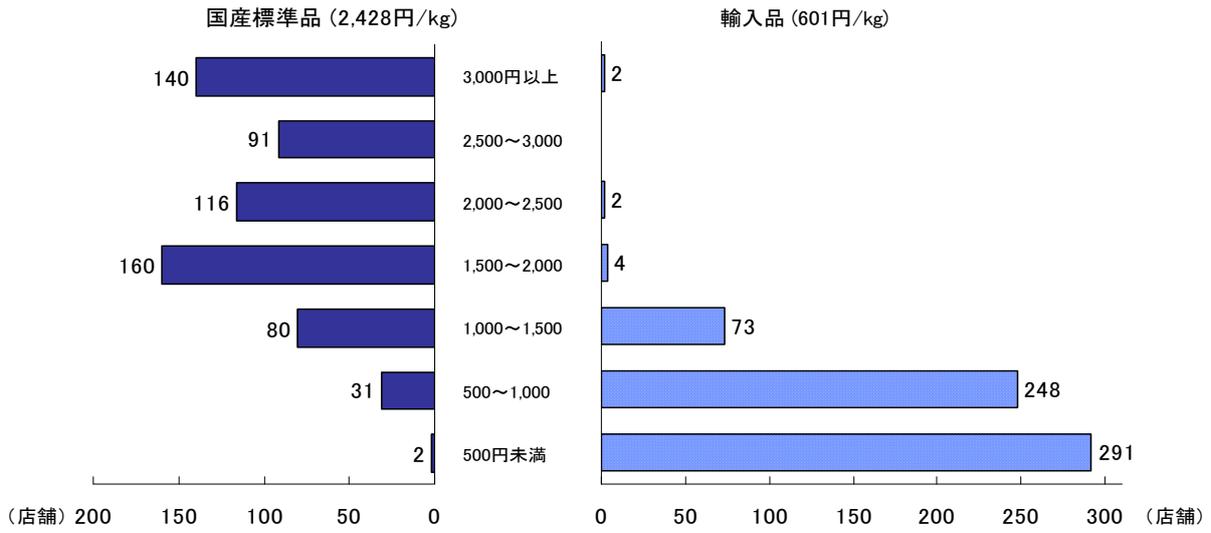
かぼちゃ



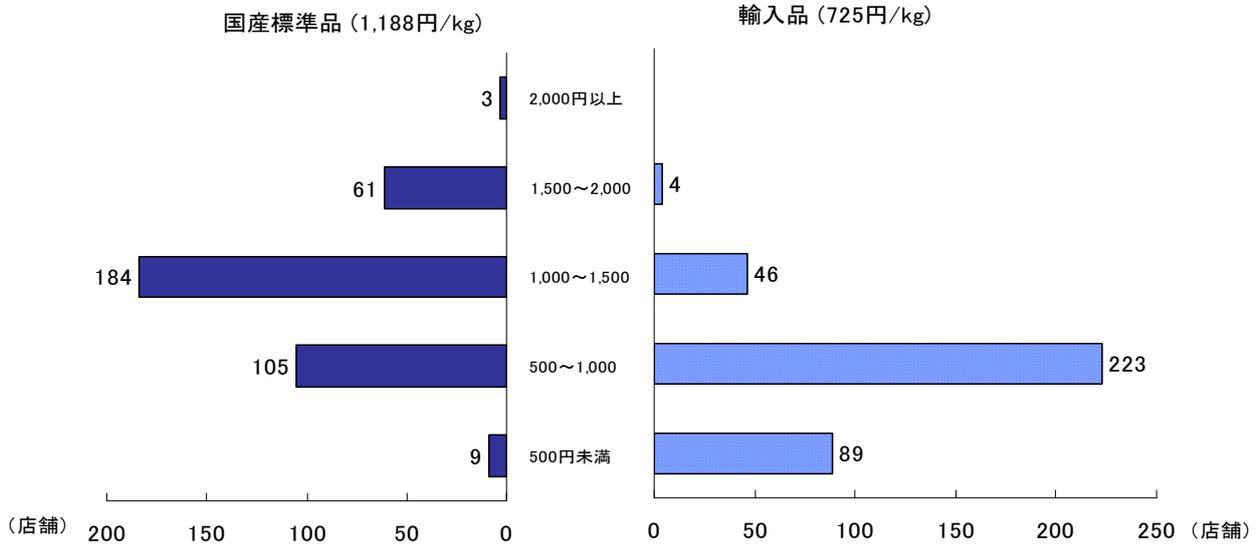
たまねぎ



にんにく



しょうが



生しいたけ

